

1年間の主な行事日程

2019年	4月	4日	第55回入学式
		5日	新入生歓迎イベント
		8日	1年次オリエンテーション(～4/10)
		11日	前期授業開始
		12日	授業公開講座「簿記原理I・II」(全30回)
	5月	7日	授業公開講座「社会学」(全12回)
		25日	春期教養講座「英文学入門」
	6月	8日	春期教養講座「役に立つ英語リスニング法」
		15日	オープンキャンパス(第1回)
	7月	13日	授業公開講座「社会福祉論」(全4日間、15回)
		27日	オープンキャンパス(第2回)
	8月	2日	前期授業終了
		5日	前期試験開始(～8/9)
		13日	夏季休業開始(～9/20)
	9月	19日	学園創立記念日
		20日	夏季休業終了
		24日	後期授業開始
	10月	5日	オープンキャンパス(第3回)
		13日	大学祭
		26日	秋期教養講座「夜の賑わい創出 湯の川温泉夜市の試み」
	11月	9日	秋期教養講座「啐啄同時 いつ、だれを、なにを」
		16日	指定校推薦入試、専門学科・総合学科推薦入試、一般推薦入試 編入学試験<A日程>
	12月	7日	本学主催業界研究会・就職懇談会(函館)
		23日	冬季休業開始(～1/14)
2020年	1月	14日	冬季休業終了
		15日	後期授業再開
		31日	卒業論文提出締切
	2月	1日	試験入試<A日程>、社会人入試・シニア入試、編入学試験<B日程>
		3日	後期授業終了
		4日	後期試験開始(～2/10)
	3月	2日	春季休業開始(～3/31)
		14日	試験入試<B日程>
		16日	第52回卒業式
		25日	新2・3・4年次オリエンテーション(～27日)
		28日	オープンキャンパス(第4回)
		31日	春季休業終了



函館大学 図書館

〒042-0955 函館市高丘町51番1号 TEL(0138)57-1181 FAX(0138)59-4575
URL <http://webopac.hakodate-u.ac.jp>



ぽるとさぴえバックナンバー 函館大学 学術情報リポジトリ・函館大学広報誌
URL <https://hakodate-u.repo.nii.ac.jp>

ぽるとさぴえ

2019 August Vol.32

函館大学広報誌 Vol.32 発行／函館大学図書館



PORT SAPIE

ぽるとさぴえ

HAKODATE UNIVERSITY
CAMPUS PRESS

特集

函大硬式野球部を育て上げてきた指導者たち ～監督・助監督・コーチたちの座談会～

就職部 高い就職率を実現している各種のキャリア支援

キャンパスリポート 学生たちのキャンパスライフ

教育の特徴・留学・クラブ活動など



函館大学

学 長 野 又 淳 司

刺激し合い、 競い合いながら 飛躍してほしい

本学が立地する北海道には、国が策定した「北海道総合開発計画」があります。現在の計画のキャッチフレーズは「世界の北海道」です。北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業として育成し、豊富な地域資源とそれに裏打ちされたブランド力など、北海道が持つポテンシャルを最大限に活用するというものです。私が学生に期待するのは、このような地域活性化に強くコミットして取り組むことですが、本学の学生は見事に期待に応えてくれています。昨年度の学生の成果をいくつかご紹介しましょう。

授業科目「商学実習」では、湯の川温泉の観光スポットを紹介する冊子「夜歩き湯の川」を地元商店街と協力して作成し、ホテルや観光案内所に設置しました。冊子の内容だけでなく、予算計画も立てるなど、経営の観点を実践で学ぶ機会になりました。

学生の発案によりムスリム観光客への対応強化を図る一案として、本学のバイエリア・サテライト内にムスリム礼拝所を設置する取り組みは、全国紙でも取り上げられました。高橋はるみ北海道知事(当時)も視察に見えられ、学生からの提言に耳を傾けていただきました。

日本銀行主催の学生政策コンテスト「日銀グランプリ」では、準優勝にあたる優秀賞を受賞しました。地域の金融機関の皆様からの熱心な助言・指導・応援を受け、全国の52大学147チームの中で、東京大学をはじめとする有名大学よりも上位の成績を挙げることができました。これは地方に住む一個人としても、とても誇らしいことです。

学生の成果だけでなく、教員も研究に真摯に取り組んでいます。例えば、食の分野は非常に裾野が広く、遺伝子組み換え、スマート農業などの科学技術の進歩も著しい難しい分野です。本学は、地域の農水産物の輸出拡大に寄与する実践

的商学研究の推進を重点目標に掲げており、本年7月には海外の研究者らを招聘して食品安全や食のグローバル化に関する共同研究会を開催しました。このような地域課題と関連が深い研究は、学生が受ける教育の質の向上につながると考えています。

さて、今年2019年の春に入学した学生は、小学5年生から英語活動を行ってきた最初の世代です。彼らが高校を卒業し、大学に入学するタイミングに合わせるように、日本はさらなる国際化へと舵を切って、外国人在留資格の規制緩和を行いました。これまでは、日本国内にいれば外国人と接して仕事をする機会ほとんどありませんでした。しかしこれからは、外国人が同僚や取引先になりますし、外国人が経営する企業も増えてくることでしょう。

このようなグローバル化の動きに対応し、本学では、2019年4月の入学生から、新たな授業科目「英語実践I・II」を新設し、英語の外部民間試験で一定の点数を取らないと単位を付与しないことを決定しました。この科目は必修授業ですので、卒業までに全員が英語の外部民間試験と真剣に向き合うことになります。

語学の修得には長時間の学習が必要ですので、テストをクリアすればいいという考え方ではなく、社会人になっても勉強を続ける姿勢を身に付けてほしいと思っています。そして、外国語の実践的な学習を通じて、主体性・行動力・適応力といった、企業が求める能力向上につなげていってほしい。本学の「地域活性化プロジェクト」などで海外渡航の機会を得て、学びの姿勢が大きく変わる学生も少なくありません。学生同士が刺激を与え合い、時には競い合って、本学の学生生活を通じて大いに飛躍することを期待しています。

CONTENTS

●学長メッセージ(学長 野又 淳司).....	1	●KANDAI ing CLUB TOPICS	
●新学部長メッセージ.....	3	軟式庭球部.....	17
●新任教員紹介.....	4	硬式野球部.....	18
●特集「函大硬式野球部を育て上げてきた指導者たち」 ～監督・助監督・コーチたちの座談会～.....	5	ビジネス企画研究室.....	18
●就職部.....	9	●CAMPUS REPORT	
●がんばる社会人一年生・インターンシップ体験.....	10	函大ゼミナール紹介.....	19
●教育の特徴、オープンキャンパス.....	11	令和元年度の公開講座.....	21
●出身校紹介 北から南から.....	13	平成30年度 学校法人野又学園 決算書.....	21
●FROM JAPAN TO THE WORLD		●授業アラカルト	
海外へと飛び出した留学生たち.....	15	「英文法」専任講師 西前 明 先生.....	22

新 学部長メッセージ

今年度、新学部長に就任した田中 浩司教授。
学部長としての抱負や意気込みなどを含めた思いを、
皆さんへのメッセージとして寄せていただきました。

学内外の連携を図り、 教育の質を高める

学部長
田中 浩司 教授



MESSAGE

皆さん、こんにちは。この4月に学部長に就任いたしました、田中浩司でございます。

突然の御下命でしたので、学部長の仕事についてはまだ勉強中でございますが、就任の抱負をということですので、今の所感を述べさせていただきますと思います。

ここ20年くらいの間に、大学をとりまく社会情勢は激変しました。少子高齢化はもとより、グローバル化の進展によって、成績評価の厳密化や学位の国際的な通用性など、大学はきちんと教育し、学生はしっかり勉強する。その量と質を「エビデンス」として示すことが求められているのです。

以前は、大学の質と言え、教員の研究の質のことであり、その「エビデンス」は研究論文の質と量によって示されたものです。ところが、近年では在学生による教育研究活動やスポーツクラブの活躍、就職実績や卒業生の動向など、在学生・卒業生の動向で、その大学の教育の質を評価しようとする思潮が主流です。

大学の教育の質の高さを示す具体的な「エビデンス」としては、各種の指標となる数値のほか、学外での大会への出場やコンテストでの受賞歴などが挙げられます。この点、就職内定率などの数値のほか、近年の在学生の実績として、2016年の教育旅行研究大会での最優秀受賞、2017年度の第2回はこだて学生政策アイデアコンテストでのグランプリ受賞、そして昨年秋の第14回日銀グランプリでの優秀受賞などは、本学の教育の質の

高さを示す「エビデンス」となりましょう。

学部長就任の折、野又学長は私に、学部長として大学の各部署・教職員に目を配り、全体を統率して欲しい。多くの委員会への出席を通して、学内の意思疎通を良くし、それを大学の発展につなげて欲しい、といった趣旨のお話をされました。そこで、私の頭の中にキーワードとして、「連携」という言葉が浮かびました。

上述の日銀グランプリの優秀受賞は、私のゼミ生なのでよくわかるのですが、これは多くの教職員、地域の企業の方々からの御指導、すなわち教職・地域「連携」の賜物と言えます。函館市には、市内8高等教育機関と函館市、函館商工会議所による連携組織「キャンパス・コンソーシアム函館」があり、合同での研究発表会や公開講座など、さまざまな事業を実施しています。これも、「連携」によってスケールメリットを出そうとするものであり、私はこの組織の役員も長く務めてまいりました。

大学の教育の質を高めること、そしてその質の高さを示す「エビデンス」を発信し続けること、それは一人の教員の力では限界があります。いろいろな場面において、学内外での有機的な「連携」を進め、本学の教育の質を効果的に高め、その実績がまた社会的通用性の高い「エビデンス」となり、函館大学の発展につながる。そんなよい流れをたくさん創り出せるように、非力ではありますが、努力してまいりたいと思います。

皆様、よろしくお願いいたします。

新 任 教 員 紹 介

今年度から函館大学に赴任し、教壇に立つ新任教員のみなさん。
これから学生たちとどのように向き合い、どんな出会いを生み出してくれるのでしょうか？

自ら「学びたい」と
思ってもらえる
教育を



安木 新一郎
准教授

大学では経済学を学修していた中で、留学をきっかけにロシア研究も行うようになった安木先生は、ロシア・ウラジオストクにある総領事館での勤務経験もあるそうです。大阪や京都の大学で教員をしていましたが、「ロシア研究をしていたことも、北海道へ行きたいと思った目的のひとつでした」と、本学に赴任したきっかけを話してくれました。「自分で面白いと思わなければ、そこからの発展はありません」と、学生たちには、自分が面白いと思えるものを見つけてほしいと願います。自分は「変態・変人」と自己分析し、「趣味は論文を書くこと」と笑う安木先生は、学生たちには、自分を含めて教員をどんどん活用してほしいと思っているそうです。

学生たちの成長が
私にとって一番の
モチベーション



しょう
蔣 博文
専任講師

経営戦略や情報経営など、経営学を専門とする蔣先生は名古屋の大学、大学院で学修・研究を続け、一度、企業へ就職してから大学教員に転身しました。「大学・大学院での恩師が人間的にとっても尊敬できる方で、私も将来はこうなりたいと思うようになったんです」と、当時を振り返ります。「学ぶ立場から教える立場になって日が浅い私にとって、それは見方次第で大きな武器」と話す蔣先生は、自身の経験を基に、学生たちに考えを発信させる機会や場をたくさん設け、表現力や発信力を身に付けさせてあげたいとのこと。「街並が素晴らしく、食べ物も美味しい」と、函館の街を気に入った様子の蔣先生は、学生たちの成長をモチベーションに教壇へ向かいます。

意欲ある学生たちの
活動の場を
広げたい



三浦 隆行
専任講師

三浦先生は東京学芸大学大学院で英語教育学、その後、ケンブリッジ大学大学院で応用言語学、エディンバラ大学大学院で心理言語学の研究に励んできたそうです。何故、そのような道を歩んできたのでしょうか？すると「教壇に立つ上で、自分の英語力を磨く努力をし、研究したいことにことごとく取り組んでからでなければ、生徒・学生に申し訳ないと思っていたから」という言葉が返ってきました。そんな三浦先生との会話は、授業中はもちろん、講義室外でもすべてが英語です。「楽ではないところに身を置き、乗り越えられる人になってもらいたい」と話す三浦先生は、新しくELLC同好会を作ったそう。更なる高みを目指す学生たちの活動の場を広げています。

学生のサポートを
厚く、深く
やっていきたい



あんの
阿武 尚人
専任講師

学部時代は法学部に在籍、言語運用を学ぶ中で認知言語学という学問に出合った阿武先生。大学院ではその専門性を深め、言語学の諸理論を教育に応用する研究を進める。本学では主に英語のリーディングとリスニングを担当しています。「旅行で訪れた函館の街が気に入り、この豊かな自然と歴史に佇みながら自分の研究を進めたかった、そして学生のサポートに深く尽力したかった」との想いがあって本学を志望。「学生への愛が、教育を力強く推進する原動力」と阿武先生は情熱が溢れんばかりに話していました。実際、着任して早速、国際英語活動同好会を立ち上げ、学生の国際的視野を広げるサポートを開始。「失敗を恐れず積極的に行動してほしい。その行動がより良い未来の自分を造るから」と、エールを送ります。

特集

函大硬式野球部を 育て上げてきた 指導者たち

（監督・助監督・コーチたちの座談会）

北海道六大学野球リーグ戦において、毎年、優勝争いを繰り広げている本学の硬式野球部。昨年秋季には7年振り3度目となる明治神宮野球大会出場を果たしました。そんな同部が強豪校となったのは、部員たちの努力はもちろん、レベルの高い社会人野球やプロ野球で活躍してきた監督・コーチら指導者たちの陰の支えがあったからこそ。そこで今回は、3人の指導者たちに集まっていたいただき、本学硬式野球部について語っていただきました。



函館大学硬式野球部 助監督
中山 俊之さん

函館大学硬式野球部 監督
阪内 俊喜さん

函館大学硬式野球部 元コーチ
古溝 克之さん

底辺からのスタート。 全国で戦えるチームへ

阪内監督（以下、阪内）「本学硬式野球部の歴史は、大学創立の歩みとともにあった。私は11回生になるんだけど、4年次の時に全国大会に初出場を果たしたんです。しかし、それからしばらくは低迷期。私が監督に就任したのが平成15年だったんだけど、2度目の全国大会出場を果たしたのは平成20年だったかな」

中山助監督（以下、中山）「そう言えば思い出したけど、その時の全国大会で監督会議というものがあって、ちょっと恥ずかしい思いをしたエピソードがあったよね」

阪内「そうそう。監督たちが発言をするコーナーがあって、その時に、我々は北海道だから『30年振りに帰ってきました、カムバックサーモンです』と発言したら、会場中がシーンと静まり返ったんだよ。マネージャーに『やらかしましたね』と言われたことは今でも覚えているよ(笑)」

古溝元コーチ（以下、古溝）「その後はどうだったんですか？」

阪内「次年度は明治神宮大会に初出場、その翌年は全日本選手権、そのまた次の年は明治神宮大会と、4年連続で全国に行ったね」

中山「でも、監督になって数年は苦しかったよね」

阪内「そうだね。私が監督になる前は、5年9期連続で2部との入れ替え戦を戦っていたからね。そこで私が監督になって、選手不足を補うために全国を回り選手を集めていった。少しずつ力をつけていき、5年後にはリーグ優勝したわけだけど、その陰には中山コーチがいた」

中山「当時はまだ大学職員ではなくて、平成20年に優勝した時、寮が完成して職員になったんだよ」

阪内「そうだったね。もともと中山さんとは縁があって、ウチはピッチャーが弱かったからコーチをお願いしたんだよ」

中山「最初の頃は他に仕事をしていたから、練習をみるのは週末だけだったかな。あの頃は、おおよそ野球部と言える代物ではなかったよ。まともに投げられるピッチャーは1人くらいしかなくて、それに、やる気もあまり感じられなかったから、技術的なことの前に、まずは精神的な面から指導していった。それから技術面の話もするようになったわけだけど、選手たちは初めて聞くような話だったから、どん欲に吸収しようとしてたね」

古溝「私は一昨年の4月にコーチになったから、その頃のことはよく分かってなかったですね」

阪内「古溝さんは今年から函大有斗高校のコーチを経て監

督になったけど、ここでの経験はどうだった？」

古溝「この2年間は鍛えられましたよ。我慢をするという、精神的な部分をね(笑)」

阪内「うるさいよ(笑)」

指導者としての チームづくり

阪内「大学野球は高校野球と違って、選手たちは大人の集まりだからね。自分で考え、動き、率先して欠点を見つけて、それを補うために練習に取り組む選手になってほしいと思って、これまで指導してきたよ。ウチのチームのスローガンは“ハートは熱く、頭は冷静に、全員野球”。試合ではそうならないと勝てないから、それを徹底している。自分から進んで練習に取り組む選手は、年々、増えてきていると思うけど」

中山「でも、最初から思い通りにはいかなかったよ。それが見えてくるようになったのは、全国大会に何度か出られるようになってから。それと、ウチのチームは、浮いた選手を作らないことを目標にやってきた。一軍も控えの選手も、リーグ戦が始まるギリギリまで同じ環境で同じ練習をする。だから頑張りなさいと。古溝さんはどうだい？」

古溝「この言い方が合っているかどうか分からないけど、最初に選手たちを見た時、レベルを下げて見てあげないといけなかったね。中山さんもそうだけど、私も一応、野球選手としてはプロまでいったので、プロのレベルで見たら選手がかわいそうだなって。ここでコーチとしてやっていく中で気付いたのは、できないのではなくて、やり方を知らないんだと。例えば膝や腰の使い方とか。だから、きっかけとなるようにコツを教えてあげる。あとは本人がやる



函館大学硬式野球部 監督
阪内 俊喜さん

函館有斗で2年春・3年春・夏甲子園計3度の出場。本学硬式野球部で活躍後、社会人野球でプレー。1987年には函館大洋倶楽部で監督兼選手を務め、2003年、母校である本学硬式野球部の監督に就任した。

かやらないか、頑張り次第だからね」

阪内「大学野球の指導者として、もっとも難しいことは、選手たちを一人前の大人として社会に出してあげなければならないこと。野球の技術を教えることよりも、そっちのほうが昔も今も気になってるよ」

古溝「社会人になってから苦労をしないように、人間形成をしてあげるのが、指導者の責任でもあるからね。自分の身内ではないんだから、そこまで考えなくていいかと思うこともたまにはあるけど(笑)。でも、その人が評価をされるのは、社会へ出てからになるんだから、いい加減なことではできないよ」

中山「その通りだね。航空自衛隊千歳(社会人野球)なんて、ウチの選手だった卒業生の評価が高いもんね」

三人「社会人になって評価をされるのは、指導者冥利に尽きるよね」

プロ野球での経験を どう生かしてきたか

阪内「中山さんと古溝さんはプロ野球の世界でやってきたけど、そこはこの大学野球にどう生かしているの?」

中山「私たちの時代は、プロの選手はトレーニングからケアに至るまで、自分でやるものだとかわっていた。だから、コーチというものはウォッチャーなんだと。選手の調子が悪くなった時に、良かった時の姿を思い出させてあげるのがコーチの役目だってね。それに、プロでは何年も同じチームで教えることは少ないから」

古溝「よっぽどではない限り、同じチームで何年も続けて教えられないからね。その点、大学野球は同じ選手を4年間続けて指導ができる。私は、このピッチャーは、ここまでは許容範囲という認識を持って、それを超えるまでは何も言わずに見ています。でも、フォー



ムが変わって、あれっと思う球が2、3球続くようになったら、『今はこうなっていたぞ』と教えていました。中には『古溝さん、何も言ってくれない』って言ってきたピッチャーがいたけど、『いいから言わないのであって、おかしい時は言うよ、ちゃんと見ているから』って言ったことがありましたね」

中山「でも、一人ひとりフォームも違えば、筋力だって同じじゃない。ちゃんと見ていないと指導なんてできないよ」

古溝「それがコーチの役目だからね。一人ひとり見極めて、方向付けをしてあげる。それができたのは、プロで目が肥えたことが大きいでしょうね。おかげで引き出しは増えましたよ」

中山「プロを経験して、一軍で勝てる選手、勝てない選手、さらにはファームの選手と、すべてを見てきているから。おかげで、その選手がどこに当てはまるかを見抜くことができ、適した指導ができるというのはある」

阪内「プロでの経験は、私も期待しています。その中で、おふたりとも目線を下げてくれているから、選手たちも話が分かるんだよね」

古溝「何故できないのだろう、と思わないことですよね。みんながプロを目指せる選手ではないのだから」

指導者たちの野球人生

中山「私が入団したのは読売巨人軍。栄光のジャイアンツに入ったわけだけど、1年目が最下位だった」

古溝「長嶋さんが監督になった1年目の昭和50年ですよ」

中山「長い歴史の中で、巨人が最下位になったのはあの時だけだから。翌年は優勝したけどね(笑)」

古溝「上も下も知っているんだからいいじゃないですか。私は阪急、阪神、日本ハムで一回も優勝を経験できなかったからね。それに、私たちからしたら、長嶋さんと一緒に戦ってこれたことがすごくうらやましいですよ」

阪内「巨人と言えば地獄の伊東キャンプがあったよね」

中山「いやいや、社会人に比べたら楽だったよ」

古溝「中山さんが在籍していた当時の大昭和製紙や新日鉄、住

金などの練習は、地獄のようだった。中山さんはそこへ飛び込んでいったんだから(笑)」

中山「知らずに飛び込んだんだよ(笑)。入ってビックリ。最初の一週間で3日くらい休んだかな、具合が悪くなって」

阪内「古溝さんのチームも練習はきつかったの?」

古溝「きつかったよ。まだ日本専売公社は創部3年目だったから、強くしていこうと思って」

阪内「私がいた日産サニーもメチャクチャ厳しかった。大学を経ずに、高校からいきなり社会人に行くのは本当にきびしいと思う」

古溝「中山さんは野球ではエリートコースだもんね。大昭和製紙でジャイアンツ。都市対抗野球大会では新人王にもなったし。うらやましいプロフィールを持ってるよ」

大学野球のその先

古溝「野球は大学の先もあるわけだけど、函大硬式野球部の中でプロを目指している選手っているんですか?」

阪内「入部した時にはプロを目指したいと言う選手はいるね。でも、『なりたい』と『なる』は別。夢を持つことはいいことだけど、私たちは現実をしっかりと見なさいと言いますよ。私も社会人野球で選手としてやっていく厳しさを体験しているし、見てきている。だから、頑張っても実力的に無理な選手には、無理だとはっきり言ってた」

古溝「3年次までだよ、頑張れって言うのは。夢も希望もなくなっちゃうから、1年次からは無理とは言わない。ただ、社会人のこのチームでやってみたいと聞いたら、そのレベルではないと言いますけど」

阪内「今年もひとり、社会人の練習に参加させてもらった選手がいるんだけど、すべてがすごいという印象を受けて帰ってきたね」

函館大学硬式野球部 元コーチ
古溝 克之さん

福島商業高等学校3年時に春夏連続で甲子園に出場。社会人野球を経て、1985年に阪急ブレーブス(現オリックス・バファローズ)に投手として入団。2017年から本学硬式野球部のコーチを2年間務めた。



中山「お金をを出してもらって野球をしていることと、お金をもらってプレーするのとではまったく違う。お金をもらっている人たちは、もちろん相手だって同じであって、お互いに生活がかかっているからね」

古溝「社会人とプロでも大きな違いがあるよね。社会人は野球がダメになっても、会社をクビにはならない。プロは即刻クビだから。それと社会人野球は、その人が野球をしている間、誰かが代わりにその人の仕事をしてくれている。みんなに助けてもらいながら野球をさせてもらっているわけだもんね。プロはそれとはちょっと違うし」

中山「行きたくても行けないのもプロだしね」

古溝「大学でも、この選手はプロに行けるかもと思える素材はたまにいますけど、そういう選手に限って、あまり練習をしないんだよね(笑)」

阪内「ウチの選手たちはのんびりしているよね。平等に練習してもらっているから、本当にのんびりした雰囲気。1年と4年が仲良く遊んでいますから。それで優勝しちゃうんだから、面白いでしょ(笑)」

古溝「いやいや、温すぎるでしょ」

これからの函大 硬式野球部へエール

阪内「私も中山さんも、もう年ですから(笑)。次の世代へしっかりと引き継いでいかないとね。私が監督になった時は、引き継ぎがなくて、とんでもない目にあったから(笑)。それと、指導法って、時代によって変わっていくものだから、その時にあった指導を後継者にはしてもらいたいね。それでも、目指すところは日本一で」

古溝「部員たちには野球に賢くなってほしい。考える力があれば、社会人でもプロでもやってくれると思うから、その力を養ってほしいな、野球を通してね。それがこれからの目標じゃないのかな」

阪内「頑張って、みんなには幸福になってもらいたい。何だか、結婚式のスピーチみたくなっちゃったよ(笑)」

中山「そうだね。その後押しを我々がやっていきたいよね」



高い就職率を実現している 各種のキャリア支援

企業側の求人意欲は、社会の人口減の影響もあり、人手不足感が続き、今年度も非常に高いようです。しかし、採用意欲は高くても「良い人材だけを採りたい」という状況は変わりません。そのような中で、本学の就職実績は98.1%という高い数字を達成することができました。卸・小売業29.0%、その他のサービス業21.3%、製造業11.4%、情報通信業5.8%、運輸業5.8%と商学部ならではの幅広い分野で活躍しています。

また、企業の厳選化傾向は今後も続くであろうと予想されます。そのため大学では、その傾向に対応できる学生を育てていくことが求められております。それに対応すべく本学では、就職に向けた様々なキャリア支援を展開しています。

一つ目は、学生への「実践教育」です。企業の人事担当者を迎えて「就職模擬面接研修会」を実施し、採用のポイントや受け答えの仕方、面接指導を含めて就職活動に役立つ具体的な実践教育を一日かけて行っています。

二つ目は「学生へ向けての報告会」です。就職担当教職員が、年間約100社の企業訪問を行い、収集した情報をガイダン

スの中で報告し、学生の就職活動を展開しやすくしています。

三つ目が「キャリア支援講座」の開催です。1年次には「キャリアプランニング」(15回)、2年次は「キャリアガイダンス」(15回)、3年次にも「キャリアガイダンス」(22回)を実施しています。その他には、SPIテストをWEBで行う企業が多くなっていることから、SPI受験対策も実施しています。

さらに例年12月に開催している「業界研究会」では、60社以上の企業の人事担当者に来ていただき、学生が直接担当者に業界や事業内容などの話を聞く有意義な場を設けています。

また、ゼミの担当教員が、学生一人ひとりに対してきめ細かい就職支援を行っているほか、キャリアスタッフによる面接指導、履歴書・エントリーシートの書き方などの指導も随時行っています。

キャリア開発課では、就職に関する資料の収集、開示、就職相談を行っており、学生がキャリア・デザインを早期から描くことができるような親身な指導・助言を行っています。

がんばる社会人一年生

今春から新社会人として新たな一步を踏み出した先輩たち。夢と希望を持って、新たな舞台で活躍しています。



お客様の期待に 応えていきたい

岩手中央農業協同組合 勤務
渡邊 光郎 さん
商学部商学科企業経営コース卒
(協和学院水沢第一高等学校出身)

大学時代は、商学について数多くのことを学び、社会に貢献できるように4年間頑張ってきました。そして就職して社会人となり、2カ月が過ぎようとする中、日々学ぶことがたくさんあり、大変な毎日を過ごしています。

私が就職した農協は、野菜や花卉類など多くの品目を取り扱っているので、数多くの出荷があつて忙しい毎日です。そんな忙しい日々の中で農家の方にも徐々に顔を覚えられ、「若い力で頑張ってくれな」「大変だろうけど頑張れ」と声をかけていただけるようになりました。その期待に応えられるように、これから日々の仕事に取り組んでいきたいと思っています。



世界に貢献する ビジネスパーソンに

(株)辻野 勤務
南 龍治 さん
商学部商学科企業経営コース卒
(函館水産高等学校出身)

就職してから2カ月が経過しました。日々学ぶことが多く、不安もありますが充実した社会人生活を送っています。私は水産系の商社に就職し、南米のイカを担当する課に配属されました。

大学では2年次で入部したビジネス企画研究室での活動を通じ、国内だけではなく「世界」を通じてビジネスをしたいという広い視野を持つようになりました。また、国際貿易論の講義内容が実際の業務に知識として活かされる場面も今後多くあるため、学生時代の経験がプラスになっていると実感しています。日々を積み重ねていく中で成長し、いち早く仕事を覚えて世界に貢献するビジネスパーソンになれるよう努力していきたいと思っています。

業界・企業・職種理解を深めるチャンス



商学部商学科
企業経営コース4年
雪田 拓実さん
(函館大学付属有斗高等学校出身)

私は昨年度の8月に函館市役所でインターンシップに参加させていただきました。配属先は総務部の職員厚生課で、主に職員に対する安全や衛生、財形貯蓄など、職員の働きやすい環境を作る部署でした。

3日間の日程の中、午前は書類に判子を押す作業がメインで、他にExcelでのデータ整理や書類整理など、さらに午後からはカルテ整理という、健康診断の結果をまとめる作業をさせていただきました。お客様を相手にするような事業部ではありませんでしたが、職員を支える組織の心臓の役割を担っている大切な事業部であり、事務のやりがい、辛さを学ぶことができました。

インターンシップは職員の方と話せるチャンスですし、職場の雰囲気を知ることができる、とても良い機会です。業界を絞れている人は、その業界のインターンシップに参加し、業界が絞れていなくても、参加することで自分にその業界が合うのかを知ることができます。就職活動をする上で参考になるとしますので、ぜひ参加してみてください。

INTERNSHIP インターンシップ体験

私は3年次の6月、マイナビさんのインターンシップフェアに参加し、そこで様々な企業のブースに足を運びました。元々、アパレル業界に憧れていましたが、ドラッグストア業界にも興味が湧いたため、夏休みに入り、札幌で開催されたアパレルとドラッグストアのそれぞれの1dayインターンシップに参加しました。

また、インテリア業界と福祉関係の仕事もやってみたいとの思いから、福祉は2日間、インテリアは3日間の業務体験型の函館大学主催のインターンシップにも参加しました。

いずれも社会人としてのマナーや仕事のやりがいなどについて学ぶことができ、さらに自分のやりたいことの視野を広げる機会となり、とても良い経験になりました。今後も就職活動を行っていく上で、これらの経験はもちろん、自分の持っているスキルなどを活かして、可能性を広げたいと思います。みなさんも是非、機会があればインターンシップに参加してみてください。

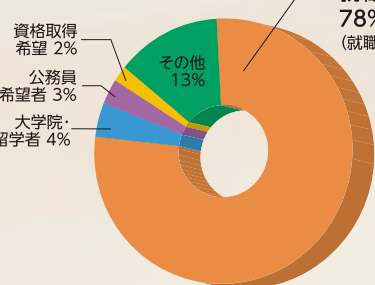
視野や可能性を広げる良い機会



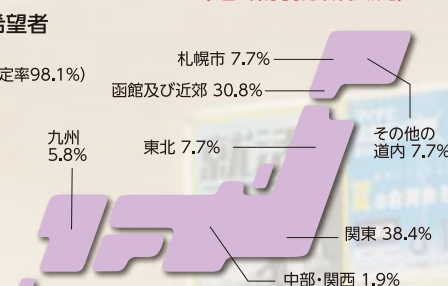
商学部商学科
英語国際コース4年
江口 明奈さん
(函館稜北高等学校出身)

就職実績 (2019年3月卒業者)

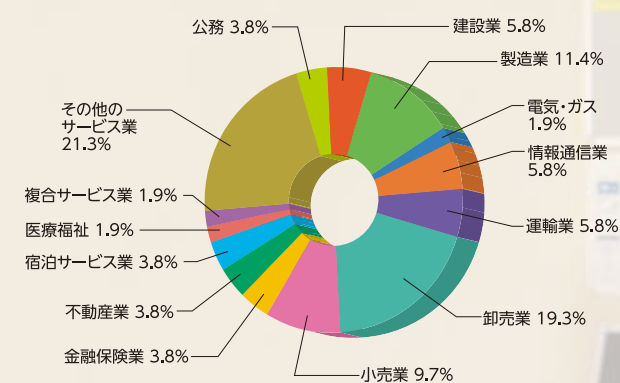
〈進路状況〉



〈地域別就職状況〉



〈業種別就職状況〉



令和元年5月1日現在

就職部長 今井 敏博 教授

質の高い教育と 就職に強い大学

入試部長
若松 裕之 教授

本学の最大の特長は、独自の教育システムと、学生による調査・研究やキャリアデザインの実現をさまざまな形でサポートする充実した支援体制にあります。



本学は、早くからアクティブラーニングという能動的な学修を促す手法を採用し、教育界・産業界から注目されてまいりました(大手進学予備校河合塾による調査。『日本経済新聞』2011/2/21)。この手法による「商学実習I・II」(1・2年次)などでは、学生による地域研究をはじめ、企業とのコラボによる商品や観光プランの開発などが、新聞やテレビニュースなどで数多く取り上げられております。

このほか、本学のビジネス企画研究室をはじめとした学生の研究グループが、青函を題材とした教育旅行プランで、海洋観光大学東日本教育旅行研究大会(同実行委員会、日本財団主催。2016/9/10)において最優秀賞を獲得したのをはじめ、はこだて学生政策アイデア・コンテスト(はこだて地方創生研究会主催。2017/11/23)で最優秀賞、日銀グランプリ(日本銀行主催。2018/11/23)で優秀賞を受賞するなど、本学のアクティブラーニングの質の高さを示すものとなっています。



本学は、創立50周年(2015年)を機に、さまざまな形で海外留学・海外研修の機会の拡充を進めてまいりました。ニューカッスル大学(オーストラリア)、ハワイ・パシフィック大学のほか、南開大学浜海学院(中国)、長榮大学(台湾)との研究・教育交流も実施しております。その他、アジア・マーケティング研修会(対象国:香港、シンガポール、タイなど)での調査・研究の取り組みもあり、海外で学ぶ機会がどんどん増えています。また、こうした海外研修費用の一部を大学で助成するなど、金銭面での支援も手厚いものになっています。

本学は、従来から就職に強い大学という評価をいただいてまいりましたが、『週刊ダイヤモンド』(2011/12/1)の特集号「就職に強い大学ランキング」で、道内限定で第3位、道内私大ではトップ(全国総合98位)となり、本学の就職実績の高さはお墨付きをいただくことになりました。本学の就職の強さは、一般的な指標の数値である就職内定率(98.1%)はもとより、就職内定者+進学者/卒業者数、という実就職内定率(80%)の高さに表れていると考えております。

このように、本学のすぐれた教育システムと高い就職実績は、マスコミからも注目され、高い評価を得るにいたっております。

オープンキャンパス

学生が案内するオープンキャンパス

今年度は、本学主催のオープンキャンパスを4回(6/15(土)、7/27(土)、10/5(土)、3/28(土))開催します。

オープンキャンパスでは、本学の教育内容や各種入試制度、就職支援の特色、学費・奨学金の説明、商学系・英語系・一般教養系に分かれたミニ講義、キャンパス見学などのプログラムがあり、本学の最新情報を聞くことができます。

当日は、在学生がキャンパススタッフとして、受験生の皆さんをご案内しますので、本学の生の情報を気軽に聞くことができます。このほか、ご希望の方には、当日学食で昼食を楽しんでもらう「無料ランチ体験」もあります。なお、当日は函館駅前から無料送迎バスもご利用いただけます。当日同伴された保護者の皆様には、受験生の皆さんとは別に、実際の時間割、4年間の大学生活のイメージ、学費などについて情報提供をいたします。個別相談にも対応しますので、お気軽に担当者にお声がけください。

オープンキャンパスなどに都合がつかない方には、函館市、青森県、岩手県などの各都市で開催されている業者主催の進学相談会に本学も参加しておりますので、お近くの会場にお越しいただければと思います。会場・日時などの詳細は、本学HPを



ご覧いただくか、本学入試課まで電話でお尋ねください。これらの機会以外にも、キャンパス見学なども受け付けておりますので、お気軽に入試課までお問い合わせください。

2020年度入試の各種の日程・試験科目などは、昨年と大きく変更はありません。一昨年度から、推薦系(11月)・試験系(2月)の入試で、特別奨学生にチャレンジできる「プラス特奨受験」制度をはじめました。

じっくりと本学のことを聞いて、自分の眼でたしかめて、本学を選んで欲しいと思っております。内外から高く評価されている本学の教育システムと、充実した学生サポート。本学で思う存分に、学修・研究に、クラブ活動に打ち込んで有意義な学生生活を過ごし、納得のいく就職を勝ち取ってほしいと思います。

OPEN
CAMPUS
2019

オープンキャンパスで函大生の自分をイメージ

在学生がキャンパススタッフとして皆さんを案内していく本学のオープンキャンパス。在学生との交流の中でさまざまな話が聞けたり、実際の講義を体験できたりと、入学後の自分がイメージできるプログラムを用意しています。そこで、当日はどのような流れで本学のことを知ることができるのか、プログラムの内容を見ていきましょう。

開催日時/2019年6月15日(土)・7月27日(土)・10月5日(土)・2020年3月28日(土) 各日12:45~16:00
※当日は函館駅前・函館大学間で無料送迎バスもご利用いただけます。

12:45~ 概要説明

参加者の皆さんに講義に集まっていただき、本学の担当者から入試・学科・コース・宿舍・通学バス等の説明をしていきます。



14:40~ キャンパスツアー

在学生のキャンパススタッフが本学内の各施設・設備の説明を行いながら、皆さんをご案内していきます。



14:00~ ミニ講義

本学での4年間の学びをイメージできるよう、商学、英語、教職など、実際に行われている講義の短縮版を体験していただきます。



15:00~ 学生交流

リラックスしながら、在学生との交流タイムを設けています。気になることや疑問など、何でも気軽に聞くことができます。また、保護者説明会も同時開催しています。



お問い合わせ先/ ☎0120-00-1172
メールでのお問い合わせは www.hakodate-u.ac.jp

北から南から

01

北海道 函館稜北高等学校

住所/北海道函館市石川町181-8 創立/昭和58年 TEL/0138-46-6235

生徒一人ひとりの人格の完成を目指す

生徒に基礎力・思考力・実践力と豊かな人間性を身に付けさせるため、目指す学校像は、自分の生き方に誇りを持って卒業し、社会で活躍する生徒を育てる学校、期待に応え、夢を叶えることができる活力と魅力あふれる学校だ。

私の母校である北海道函館稜北高校は男女ともに仲が良く、雰囲気の良い学校です。GLAYのHISASHIさんやTAKUROさんの出身校でもあります。部活や学校祭、勉強にも一生懸命な学校で、看護系に進む人が多いことも特徴に挙げられます。学校祭で行われる合唱コンクール「たてうた」は珍しい企画。1～3年生のクラスでシャッフルし、各チーム3年生が中心となって合唱チームを作り、優勝に向かって必死に練習をします。部活以外で横ではなく縦の繋がりができる、とても楽しい企画でした。そんな稜北高校は2021年4月に閉校し、函館西高等学校へと再編統合されます。2019年4月1日から校内に知的障がい者の教育を行う、北海道函館高等支援学校が開校し、閉校後は校舎と敷地のすべてを北海道函館高等支援学校に引き渡すことになっています。

母校がなくなってしまうのは寂しいですが、大学生活や社会に出た後も稜北高校卒業生の誇りを胸に過ごしていきたいと思っています。

商学部商学科
英語国際コース2年
濱本 佳歩さん

02

北海道 奥尻高等学校

住所/北海道奥尻郡奥尻町字赤石411-2 創立/昭和50年 TEL/01397-2-2354

奥尻島の教育資源を有効活用した教育

平成28年、それまでの道立の高等学校から、奥尻町立の高等学校へ移管し、新たなスタートを切る。郷土を愛する人材の輩出に加え、自らの成長とともに、町の発展を考え、行動できる、地域の将来を担う人材の育成を図る。

私の出身校である奥尻高校では様々なプロジェクトを実施しており、地域を担う人材を育成し、人としてたくさん成長させてくれる学校でした。特に私が思い出に残っているものはスクーバダイビングです。奥尻高校は、普通科高校で道内唯一、スクーバダイビングのライセンスを取得することができます。これも、私がここを受験した一つの理由でした。

しかし実際に海で実践してみると、地上とは違う景色・息の仕方などたくさんの恐怖がありました。1年生の頃、何回潜っても恐怖が消えず挫折しかけたのですが、担当の先生の声かけなどのおかげで恐怖を克服することができ、それ以来、毎回海で潜ることが楽しみにしていました。3年生になるとナビゲーションや救助の仕方なども学びます。危険と隣り合わせの授業ですが、私はそのおかげで臨機応変に対応する力や、コミュニケーション能力、判断力を身に付けることができました。今も学んだことを忘れず、函館大学での生活を充実させることができている。

商学部商学科
英語国際コース2年
天内 美月さん

03

青森県立 七戸高等学校

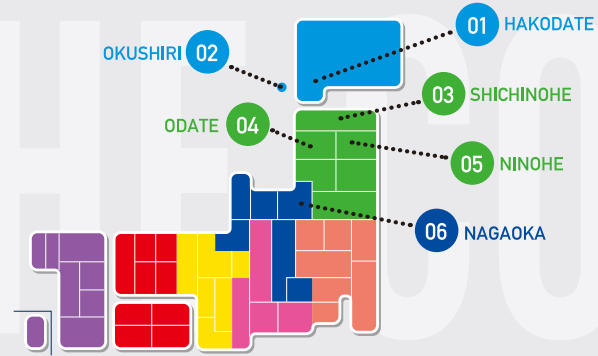
住所/青森県上北郡七戸町字館野47-31 創立/大正15年 TEL/0176-62-4111

次代を担う人材の育成に向かって

平成8年には県内初となる「総合学科」の高校となる。「敬愛・勤勉・創造」の校訓の下、「夢実現」道を切り拓こうを合い言葉に、心豊かな人間の育成、社会に貢献できる人間の育成、未来を創造する逞しい人間の育成を目標とする。

私は中学生の頃からバドミントンに打ち込んできましたので、入学した当初から部活に力を入れようと思っていました。しかし、部活だけに力を入れるのは自分のためにならないと思い、文武両道を1年生から目標にしていたんです。1年生から勉強に力を入れていたことで、2年生からは進学クラスになり、3年生では最後のテストで、3年間で1番高い順位でした。

部活では3年間団体メンバーに入ることができ、個人戦ではダブルスもシングルスも入賞できました。部活に入ったおかげで本当にたくさんのことを学ぶことができ、充実した3年間を送ることができたと思っています。3年間、文武両道を目標にしていたおかげで、どちらも悔いなく終えることができました。ただ一点、部活はほぼ休みがなくボランティア活動をするのができなかったこともあって、函大ではボランティア活動を積極的に行いながら、勉強も頑張っていきたいです。

商学部商学科
英語国際コース1年
新山 瑠菜さん

04

秋田県立 大館国際情報学院高等学校

住所/秋田県大館市松木字大上25-1 創立/平成17年 TEL/0186-50-6090

グローバルな世界で活躍する人材育成

秋田県立大館商業高等学校を母体校として、普通科と国際情報科の2学科を有する併設型中高一貫教育校として開校。6年間を見据えたキャリア教育を意識しながら、生徒の個性や可能性を伸ばす学校を目指している。

私の出身校である大館国際情報学院高等学校は様々なスポーツで県大会上位になったり、東北大会や全国大会に出場するような部活動が盛んな学校でした。私が所属していたソフトテニス部も団体戦で県大会2位になり、東北大会に出場したこともあります。

振り返ってみると、私は部活動を通して様々なことを学ぶことができました。仲間と切磋琢磨して頑張ることの素晴らしさや結果を追い求めることの大切さを知り、充実した部活動だったと思います。最後の県大会では、あと2点を取ることができずに東北大会の出場権を逃してしまい悔しい結果でした。しかし、函館大学のソフトテニス部の監督にその県大会で声をかけていただき、新しい環境で競技を続けることができたので、とても感謝しています。

これからは、支えてくださっている方々の期待に応えられるように、部活の先輩や同期の人たちと切磋琢磨しながら成長していき、個人戦、団体戦ともに結果を出せるよう頑張っていきたいと思っています。

商学部商学科1年
若松 裕真さん

05

岩手県立 福岡高等学校

住所/岩手県二戸市福岡字上平10 創立/明治34年 TEL/0195-23-1161

学ぶ意欲に溢れ、心豊かで、活力ある学校に

「文武両道・質実剛健」の校是の下、高大官連携による人材育成事業では、グローバルな視点で地域課題を探究する実践力を養う。「挑戦する伝統校」は、新時代を切り拓く骨太の人材育成を進めている。

私の出身校である岩手県立福岡高等学校は118年目を迎える伝統校であり、「文武両道」と「質実剛健」を校是に掲げています。部活動では硬式野球部10回甲子園出場、剣道部、弓道部、水泳部、書道部が全国大会に出場するほど様々な部活動が好成績を収めています。また、福岡高校には伝統行事が盛りだくさん。例えば、応援団が野球応援のために球場まで歩いて移動する80キロ行軍などがあります。

私は水泳部に所属していました。部員は10人以下で少人数でしたが、その分、1年生から3年生まで非常に仲が良かったです。私は1年生の時、県大会で決勝には進めないような選手でしたが、つらい練習を仲間と乗り越え、メドレーリレーのメンバーとして東北大会の決勝に進出するほどまでに成長できました。インターハイ出場を目標にし、それに向かう姿勢・体力・精神力・忍耐力などを身に付けることができたと思います。高校の水泳生活で培った力を函大で生かし、将来の夢に向かって努力していきたいです。

商学部商学科
英語国際コース1年
高村 龍一さん

06

新潟県 中越高等学校

住所/新潟県長岡市新保町1371-1 創立/明治38年 TEL/0258-24-0203

創立からの校風を受け継ぎ、学ぶ志を育てる

昭和31年に男女共学となり現校名に改称。「自己の信ずる教育をするためには自分の学校を持たねばならぬ」という「建学の精神」を校風の「進取の精神」と「文武一如」、校訓の「質実剛健」、教育精神に具体化し、人材育成に努める。

私の出身校である中越高等学校は部活動がとても盛んな学校で、野球部は甲子園、バレー部は春高に出場など、他にも各部活動が県大会上位の常連校でした。それぞれの部活動の努力に他の部活動が刺激を受け、学校全体の部活動や行事が活発でした。

私は中学校の頃からバスケットボールを始め、高校入学当初は部活動に入る気はなかったのですが、中学時代の先輩や同級生に「一緒にやろう」と誘われて入部を決めました。最初はあまり気が進みませんでしたが、過ごしていくうちにやりがいを感じるようになりました。さらに、この3年間で仲間の大切さや、礼儀など様々なことを学び、得ることができ、やってきてよかったと思えるかけがえのない財産になりました。

また、体育祭や文化祭、球技大会や校内駅伝大会など様々な学校行事で思い出ができたと同時に、とてもいい経験をすることができたと思います。中越高校で学び、経験したことを函館大学でも活かし、更なる成長を目指していきたいです。

商学部商学科1年
五十嵐 大和さん



海外へと飛び出した留学生たち

FROM JAPAN

TO THE WORLD



函館大学では海外の大学と姉妹校提携し、本学学生の海外留学、姉妹校からの留学生の受け入れに積極的に取り組んでいます。留学した学生たちは、どのような思いを抱いて留学生活を送り、その経験を今後、どのように生かしていこうと思っているのでしょうか？お話を伺いました。

オーストラリア・ニューカッスル大学附属英語学校に短期語学留学

赤坂 智弥 さん

商学部商学科英語国際コース3年
(函館大学付属柏稜高等学校出身)

たくさんの人を英語が「苦手から好きになる」へ



「今後は研修などで他の国にも行ってみたい」と話す赤坂 智弥 さん。

将来、英語の先生になりたいという目標を持っていたので、大学に入る前から海外へ行ってみようと思っていました。人に英語を教える上で、現地の英語にふれることはもちろん、外国の文化も学ぶことは、きっと大きなプラスになると考えていたんです。

実は、中学生の時は英語が苦手科目でした。しかし、高校の先生の教え方がとても分かりやすく、英語を勉強することが楽しくなっていく中で、たくさんの人に、私のように苦手から好きになってもらいたいと思うようになっていったんです。

そこで、その目標へ向かうために進学先として選んだのが、短期・長期留学のほか、海外研修など、海外へ行くチャンスが多い本学でした。私が海外へ行ったのは今回が初めてで、期間は今年2月上旬から3月中旬の約6週間。不安はゼロ



さまざまな国から来た留学生と一緒に英語を学んだ赤坂 智弥 さん。(右上)

ではありませんでしたが、分からないからこそ、何でも新鮮に感じられ、吸収できるというワクワク感のほうが大きかったかな。

語学学校では、最初に受けたテスト結果によってクラス分けされ、約20名ほどのクラスメイトと一緒に学びました。今回、日本人の男子は私だけだったのですが、他国からの留学生は、自分からゲイゲイ行く人が多いので、時間が経つにつれて打ち解けていけました。他国の文化や考え方を直接、自分の肌で感じられたことは、大きな財産になったと感じています。そして、学校がさまざまなイベントを企画してくれたおかげで、交流も深められました。

また、ホストファミリーはマレーシア人の家族だったのですが、奥さんはとても料理が上手で、何でもおいしかったですね。一度、「カンガルーの肉を食べてみたい」と言ったらバーベキューをしてくれたのが良い思い出になりました。ホストファミリーとは、向こうが私の来る日を1日勘違いして不在にしていたというトラブルが最初にありましたが、それも振り返ってみると良い経験でした。

海外の人たちは、ありのままの自分を受け入れてくれる人が多い。今回の留学をきっかけに、以前ほど人の目を気にしなくなりました。今は英語の先生のほか、システムエンジニアにも興味があります。どんな職に就くにしろ、これからは英語が必要な時代になっていきます。この留学経験を武器にするためにも、英語力をさらに上達させていきたいですね。



フィリピン・セブ島に短期語学留学

田井中 惲生李 さん

商学部商学科英語国際コース3年
(函館白百合学園高等学校出身)

マンツーマンのレッスンで英語力が向上

今年2月16日から3月3日までの2週間、フィリピン・セブ島へ語学留学しました。元々、大学に入ったら留学をしたいと考えていて、本学への進学を希望したのも、いろんな国へ留学できるチャンスがあると聞いていたからです。

留学先をセブ島に決めたのは、オーストラリアに比べて費用がかからないことに加え、授業が先生とのマンツーマンで行われるという点でした。さらに、セブ島への留学プランは、今回が初めての実施となることにも興味が湧いたんです。そして、留学の話をお母さんに。その時、母は応援してくれた一方、父は「何でそんな危ないところへわざわざ行くんだ」と心配



「将来は教員志望なので、先生の教え方を学べたのも良かった」と話す田井中 惲生李 さん。



留学を通して多くの人との出会いが生まれた田井中 惲生李 さん。(右下)

していたのですが、母が父を説得してくれました(笑)。

語学学校ではTOEIC対策のレッスンはじめ、さまざまなコースを設けており、私はその中でスタンダードなコース。基本は現地フィリピン人の先生とマンツーマンでのレッスンとなりますが、グループレッスンも行われました。現地の先生とのマンツーマンですから、やりとりは常に英語で、喋らざるを得ない状況に置かれます。しかし、語学学校で学ぶ目的は、英語を上達させたいからであり、先生もこちらの対応に合わせて優しく教えてくれましたね。



また、留学生たちは寮で生活します。その寮には他の語学学校で学ぶ留学生もいて、私のルームメイトはタイ人とロシア人。そこで私は、相手に自己紹介をしてもらうためのカードを作り、そのカードに名前や趣味などを書いてもらって、コミュニケーションをとるきっかけづくりをしました。しかし、最初はなかなかうまくコミュニケーションがとれず、「もっと勉強しなきゃ」と思い知らされましたが、そう思っただけでも、留学をした意味があったと感じています。

海外へ行くには、当然、お金がかかります。セブ島への留学は、留学費用だけでなく、向こうは物価も安いので、金銭的な負担が少ないです。私はお小遣いを5万円ほどしか持っていませんでしたが、お土産代を含めても3万円くらいしか使わずに済みました。英語力をしっかりと身につけたいと考えている人は、ぜひセブ島への留学にチャレンジしてほしいと思います。

KANDAI

内外に函大の元気を発信します!

自分自身を磨くクラブ活動 それぞれが目標や 情熱を持って打ち込む

軟式庭球部

SOFT TENNIS

もっともっと成長できるよう、 考えながら練習に打ち込む

長瀬 果穂さん(1年次)は、高校在学中に本学軟式庭球部の梅崎監督からアドバイスをもらったことがきっかけで、本学への進学を決めたそうです。「美容師になりたい夢もあったのですが、テニスをやりたいという気持ちが上回り、ここでテニスに打ち込むことに決めました」と、やる気に満ち溢れています。また、高木 祥輝さん(1年次)は、オープンキャンパスで同部の練習に参加したことがターニングポイントになったとのこと。高木さんいわく、「練習の中で梅崎監督や先輩方から話を聞くうちに、この環境でテニスがしたいと思ったんです」。

そんなふたりが実際に入部して感じたのは、雰囲気の良い明かさだったそう。「監督も先輩方も、皆さん練習中は明るくて、テニスを心から楽しんでいるのが伝わってきました」と声を揃えます。

中学では硬式テニス部がなかったことから、それまでの硬式から軟式へと転向した高木さんは、「基本的にはダブルスなので、ペアとのチームワークが大切な競技。一緒に頑張っていくところが軟式の魅力」と話します。一方、辞めるきっかけがなかったから、今も続けているのかなと笑う長瀬さん。元々、団体戦が好きではなかったそうですが、春の大会を通して、「みんなが一致団結して戦う中で、団体戦が楽しいと思うようになりました」と気持ちの変化を明かしてくれました。

高校時代に比べると、何をすべきかを自分で考えながら練習に取り組むようになったというふたり。同部では、週末は男女の部員と一緒に練習していることから、長瀬さんは男子との乱打を通し、女子のトップの速いボール

にも対応できるようになってきたと成長を実感しているようです。そして高木さんは、「部員数がそれほど多くないので、部員同士の絆が深まる。これはダブルスを組む上で大きな利点になっていると思います」とのこと。

他の同級生には負けたくないと話す高木さんと長瀬さんは、春の大会の経験を生かし、更なる成長を誓って練習へと向かいました。



長瀬 果穂さん
商学部商学科1年
(八戸学院光星高等学校出身)
「教職免許を取得して、卒業後は母校の高校でテニスを教えたい」。

高木 祥輝さん
商学部商学科1年
(武蔵越生高等学校出身)
「部活にしっかり取り組むためにも、授業中は集中して勉強しています」。



部員それぞれが自分で考え、楽しみながらも真剣にテニスと向き合っています。



函館大学軟式庭球部HP <http://kandai-nantei.jimdo.com>

硬式野球部

BASEBALL

メリハリのあるチームで 再び全国大会へ

昨年キャプテンとしてチームを引っ張ってきた黒木 匠さん(4年次)が本学へ進学した最初のきっかけとなったのは、中学の時、現チームメイトと秋田県の県選抜で出会ったこと。「高校も別でしたが、抽選会などで会った時に、彼が函大へ行くことだったので、一緒にチームでプレーがしたいと思ったんです」と、当時を振り返ります。

小学校3年生から始めた野球ですが、黒木さんはこれまで辞めようと思ったことは一度もないそうです。「苦しかった時もありましたが、辞めたいと思う前に、どうやって乗り越えていくかをいつも考えていました。野球をしていなければ、自分ではないかなと感じるようになっていったんですね」。

キャプテンを任されてからは、メリハリのあるチームづくりを目指してきたと話す黒木さん。結果、昨年秋のリーグ戦では優勝を果たし、代表決定戦にも勝利して、見事、全国大会へとチームを導きました。

「結果が出たことで、素直に自信になりました。自分自身、これまで優勝を経験したことがなかったのも、心からやってきて良かったと思えました」と、満面の笑みを浮かべます。

守りの要となるセンターを任せられ、守備力には自信があると話す彼のプレーを、これからも楽しみに見ていきたいですね。



函館大学硬式野球部HP <http://kandai-bbc.jimdo.com>



黒木 匠さん
商学部商学科企業経営コース4年
(本荘高等学校出身)
「メンタル強化や向上心、人との出会いなど、野球から得たものはたくさんあります」。



今後の活躍も楽しみな硬式野球部の部員たち。

ビジネス企画研究室

BUSINESS STUDIES

各グループで様々なプロジェクトにチャレンジ

部員それぞれがやりたいことに向い、さまざまなプロジェクトにチャレンジし続けているビジネス企画研究室。昨年春に部へ昇格し、部員が大幅に増えた現在は、グループ分けをして各プロジェクトに取り組んでいるそうです。

入学式の部活紹介を見て、「大学生の自由研究というフレーズが魅力に感じた」と話す鎌田 一希さん(2年次)と「観光で有名な函館でビジネスの研究ができるという話に気持ちを持っていけた」と話す佐藤 郁生さん(2年次)のふたりが進めているプロジェクトのひとつが、大学図書館内での『ビ研おすすめ図書コーナー』の設置です。「もっと一般の方にも大学の図書館を利用してもらいたいと思ったことから始めたプロジェクトです」と鎌田さん。続けて佐藤さんは、「地域の方はもちろん、本離れが深刻な大学生にも本に触れる機会を作りたいと



地域の特色を生かし、学生の力でビジネスにつなげていく同部の活動。

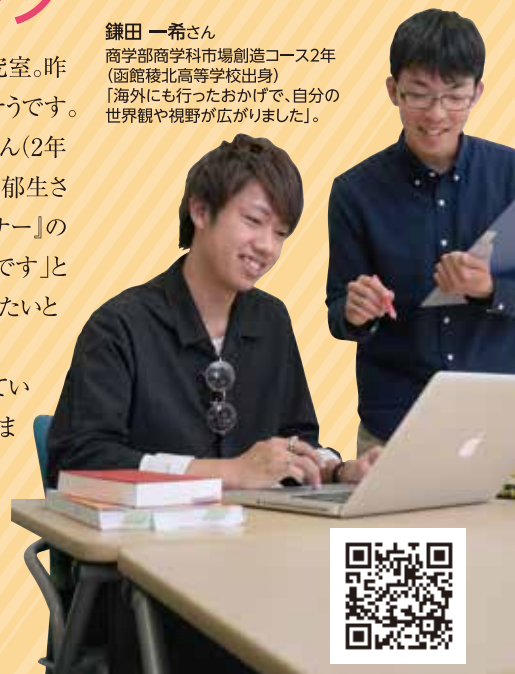
思いました」と、思いを語ってくれました。

この図書コーナーでは、設置した本のレビューをふたりが書いています。「借りてみたいと思ってもらえるようなレビューを心掛けています」と鎌田さん。一方、佐藤さんは、「大学の図書館には多彩なジャンルの本があります。いろんな目的の方に利用してもらいたい」とアピール。「部活動が本当に楽しい」と話すふたりは、地域の活性化につながるプロジェクトに真剣に取り組んでいます。

函館大学ビジネス企画研究室 Facebook <https://ja-jp.facebook.com/HAKOUBken/>

佐藤 郁生さん
商学部商学科企業経営コース2年
(秋田西高等学校出身)
「活動を通して人とのふれあいが楽しく、地域のことを知ることができました」。

鎌田 一希さん
商学部商学科市場創造コース2年
(函館稜北高等学校出身)
「海外にも行ったおかげで、自分の世界観や視野が広がりました」。



キャンパスリポート

夢や目標に向かう学生たちの明るく楽しく、充実した
キャンパスライフ。その様子をちょっとのぞいてみましょう。

実践型学習を経て、理論的な研究へ

函大ゼミナール紹介

本学ではフィールドワークを中心とした実践的な授業である「商学実習」を1・2年次の必修科目にしています。そして、その商学実習で培った学びをより論理的に研究し、卒業論文の完成へとつなげていくための重要なカリキュラムとなっているのが、3・4年次の必修科目となる「専門ゼミナール」です。

本学では個性あふれる教員たちの専門ゼミナールで、学生たちがさまざまな研究に励んでいます。そこで今回は、おふたりの先生の専門ゼミナールをピックアップして紹介します。

商学実習から専門ゼミナールへの流れ

1年次

商学実習Ⅰ

商学の対象・方法を理解していく

2年次

商学実習Ⅱ

企業・市場・地域の課題を体験的に分析していく

3年次

専門ゼミナールⅠ

商学の理論を学修していく

4年次

専門ゼミナールⅡ

実践的研究による卒業論文の作成

卒論

専門ゼミナールⅠ・Ⅱ(経済学)

地域産業・経済についての研究

担当教員／寺田 隆至 先生



このゼミナールの大きなテーマは、地域産業・経済の内発的発展です。具体的には、今日の日本経済が抱える、「地域（地方）の経済的疲弊」や「地域間の経済的格差」といった問題について、こうした問題が何故生じているのか、どうすれば地域産業・経済の発展を、地域が主体となって実現できるのかという課題について研究しています。

毎年、ゼミナールには、道南や北東北はもちろん、関東や九州など様々な出身地の学生が集まりますので、最初に、各自が自分の出身地域の経済状況について基礎的な調査と発表をし、各地域の比較の中で浮かび上がってきた差異・特徴・問題点について、全員で、その原因や背景、解決策について仮説を提起し、その検証を行っていきます。その上で、検証結果と関連する先行研究の成果を批判的に検討することを行います。

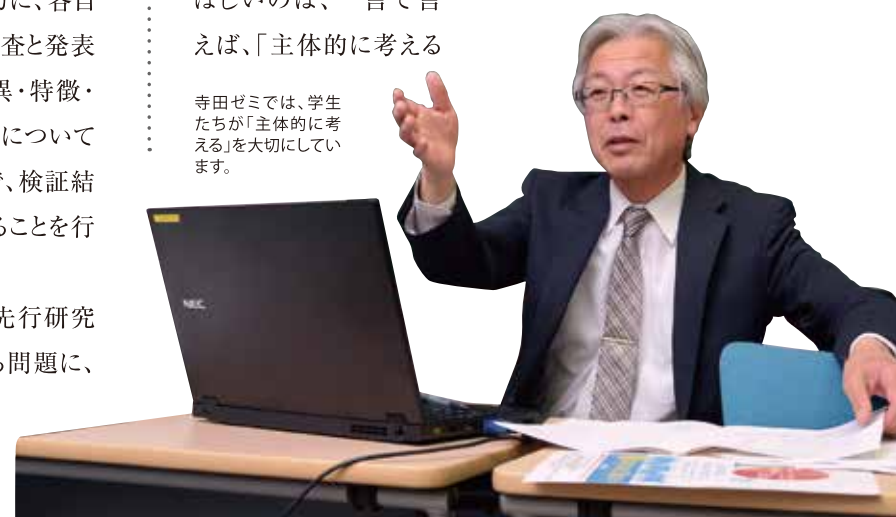
これが1年目のゼミナールの学修で、2年目には、先行研究では明らかになっていない地域産業・経済に関わる問題に、



各自が取り組む卒業研究が始まります。函館大学では、7月末に他のゼミナールと合同で行う「卒論中間報告会」で発表することが必須となっていますので、報告会が近づくにつれて、学生達の学修は一段と熱を帯びたものになっていきます。

2年間のゼミナールの学修を通じて、学生たちに獲得してほしいのは、一言で言えば、「主体的に考える

寺田ゼミでは、学生たちが「主体的に考える」を大切にしています。



姿勢」です。経済の問題を論じるのを、エコノミストなど一部の専門家に任せるのではなく、現実の経済の中で働き、生活し、経済問題にも様々な影響を受ける個人として、自らが必要なデータを収集し、先人の知見や活動にも学んで、その解決策を考え、場合によっては情報を発信して

いく。そうした「主体的に考える姿勢」は、卒業後に、学生たちが、経済問題に限らず、様々な問題に直面する中で必ず必要になってくるものです。彼らには、そうした姿勢を貫いて自らの人生を力強く切り拓いてほしいと願っています。

専門ゼミナールⅠ・Ⅱ(都市・地域経済学)

今、注目される経済学の研究

担当教員／西村 淳 先生

ミクロ経済学の応用経済学であるのが都市経済学、マクロ経済学の応用経済学であるのが地域経済学です。前者は市民の効用が最大になることを目指し、後者は市民の所得を増加させることを目指します。



函館は魅力度が全国一位で幸福度が最下位に近いと言われます。これはイメージが良いだけで、実態はそうではないことを示しています。北海道新幹線が開通したことで市民の生活に改善が見られたでしょうか？また北海道新幹線はいつになれば黒字になるのでしょうか？中心市街地活性化、コンパクトシティが言われますが、函館市の中心はどこでしょう？市の考えている中心と市民の考える中心が異なっているのでは？中心が分からずして、どこに住民を集めるのでしょうか？

このゼミではこのような問題を卒論のテーマにします。



いく。そうした「主体的に考える姿勢」は、卒業後に、学生たちが、経済問題に限らず、様々な問題に直面する中で必ず必要になってくるものです。彼らには、そうした姿勢を貫いて自らの人生を力強く切り拓いてほしいと願っています。

これらの内容を専門ゼミナールだけで学ぶことはできません。したがって、高度な理論に関する勉強は地域経済論で学ぶことにして、このゼミでは、都市や地域といった空間を考慮しながら、私たちが置かれている経済的な状況を理解するために、基礎知識を前期で学びます。後期は知識の定着を図るためにビデオ教材を観たり、関心を持った新聞記事について議論するなど、学生と教員がコミュニケーションを取りながら楽しく学んでいく授業にしたいと思っています。その中で、函館市や出身地というような身近な都市の問題を考えるうえで重要な理論を取り上げます。それを道具として、どうしたらそれらの問題が改善されるのか自ら考えるようにします。



都市経済学は、ノーベル賞を受賞し、経済学の中では現在注目を浴びている分野です。今では空間経済学の一部として考えられるようになりました。少子高齢化、転入人口を上回る転出人口から、近い将来、各地で都市消滅の状況が発生します。この問題の解決方法を、一緒に学びませんか？

都市経済学は、ノーベル賞を受賞し、経済学の中では現在注目を浴びている分野です。今では空間経済学の一部として考えられるようになりました。少子高齢化、転入人口を上回る転出人口から、近い将来、各地で都市消滅の状況が発生します。この問題の解決方法を、一緒に学びませんか？



学生と教員のコミュニケーションを重視している西村ゼミ。

令和元年度の公開講座
教養講座は春・秋各2講座、
ほかに授業公開講座や
紙上公開講座もあり
盛りだくさん

地域連携センター長
准教授 大橋 美幸



教養講座は春期2講座、秋期2講座です。春期は英語で、英文学とリスニング法を学びます。秋期の1回目はまちづくりについて湯の川温泉夜市の取り組みを学びます。秋期の2回目は教育と学習について考えます。

通常の大学授業を市民に無料で公開している授業公開講座は3科目です。「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」はこれまで全く簿記を学んだことがない人が対象です。商業簿記を中心に複式簿記の基本的仕組みを学びます。「社会学」は大学生のための社会学入門です。毎回、グループで最近の社会的課題について話し合います。「社会福祉論」は4日間の集中講座です。認知症カフェに出かけたり、地域共生社会の話を聞いたりして、函館の福祉のまちづくりを考えます。

また、函館新聞で毎月第1金曜日に「函館大学講座」を連載しております。1月から6月のテーマは「税金」でした。7月から12月のテーマは「雇用」です。法律、経営学、経済学、会計学等の観点から、教員がリレーで執筆しています。

教養講座

《春期》

- 第1回 5月25日(土) 10:00～12:00
「英文学入門」 講師:山田 康夫
- 第2回 6月8日(土) 10:00～12:00
「役に立つ英語リスニング法」 講師:阿部 ジョスリン

《秋期》

- 第3回 10月26日(土) 10:00～12:00
「夜の賑わい創出 湯の川温泉夜市の試み」 講師:津金 孝行
- 第4回 11月9日(土) 10:00～12:00
「啐啄同時 いつ、だれを、なにを」 講師:花田 譲

授業公開講座

- 「簿記原理Ⅰ・Ⅱ」4月12日(金)～1月31日(金)
前期金曜10:40～12:10、後期金曜9:00～10:30(全30回)
講師:片山 郁夫
- 「社会学」5月7日(火)～7月23日(火)
毎週火曜10:40～12:10(全12回) 講師:大橋 美幸
- 「社会福祉論」7月13日(土)・14日(日)・20日(土)・21日(日)
9:00～16:20(集中講義、全4日間、15回) 講師:大橋 美幸

函館新聞紙上公開講座

- 毎月第1金曜日に函館新聞の紙面で掲載しています。
7～12月はシリーズ「雇用」

平成30年度 学校法人野又学園 決算書

(単位:千円)

資金収入の部		資金支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
学生生徒等納付金収入	1,150,770	人 件 費 支 出	1,518,927
手 数 料 収 入	24,337	教育研究経費支出	495,282
寄 付 金 収 入	8,294	管 理 経 費 支 出	197,378
補 助 金 収 入	833,356	借入金等利息支出	562
国庫補助金収入	260,362	借入金等返済支出	9,264
地方公共団体補助金収入	503,153	施 設 関 係 支 出	514,203
施設型給付費収入	66,826	設 備 関 係 支 出	39,566
その他の補助金収入	3,015	資 産 運 用 支 出	246,509
資 産 売 却 収 入	31,000	そ の 他 の 支 出	173,493
付随事業・収益事業収入	91,171	(予備費)	
受取利息・配当金収入	53,793	資金支出調整勘定	△100,404
雑 収 入	98,150	翌年度繰越支払資金	493,424
借 入 金 等 収 入	0		
前 受 金 収 入	236,937		
そ の 他 の 収 入	1,072,435		
資金収入調整勘定	△283,982		
前年度繰越支払資金	271,943		
資金収入の部合計	3,588,204	資金支出の部合計	3,588,204

事業活動収支計算書	科 目	金 額
教育活動の収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金	1,150,770
	手 数 料	24,337
	寄 付 金	7,925
	経 常 費 等 補 助 金	833,356
	国 庫 補 助 金	260,362
	地 方 公 共 団 体 補 助 金	503,153
	施 設 型 給 付 費	66,826
	そ の 他 の 補 助 金	3,015
	付 随 事 業 収 入	63,651
	雑 収 入	121,912
教育活動の支出の部	教 育 活 動 収 入 計	2,201,951
	人 件 費	1,528,681
	教 育 研 究 経 費	738,160
	管 理 経 費	253,328
	徴 収 不 能 額 等	6,439
教育活動外収支の部	教 育 活 動 支 出 計	2,526,608
	教 育 活 動 収 支 差 額	△324,657
	受 取 利 息 ・ 配 当 金	53,793
	そ の 他 の 教 育 活 動 外 収 入	27,520
	教 育 活 動 外 収 入 計	81,313
教育活動外収入の部	借 入 金 等 利 息	562
	そ の 他 の 教 育 活 動 外 支 出	0
	教 育 活 動 外 支 出 計	562
	教 育 活 動 外 収 支 差 差 額	80,751
	経 常 収 支 差 差 額	△243,906
特別収支の部	資 産 売 却 差 差 額	0
	そ の 他 の 特 別 収 入	525
	特 別 収 入 計	525
	資 産 処 分 差 差 額	30,828
	そ の 他 の 特 別 支 出	2,194
特別収支の部	特 別 支 出 計	33,022
	特 別 収 支 差 差 額	△32,497
予 備 費		
基 本 金 組 入 前 当 年 度 収 支 差 差 額		△276,403
基 本 金 組 入 額 合 計		△459,746
当 年 度 収 支 差 差 額		△736,149
前 年 度 繰 越 収 支 差 差 額		△833,189
基 本 金 取 崩 差 差 額		52,481
翌 年 度 繰 越 収 支 差 差 額		△1,516,857

(参考)

事 業 活 動 収 入 計	2,283,789
事 業 活 動 支 出 計	2,560,192

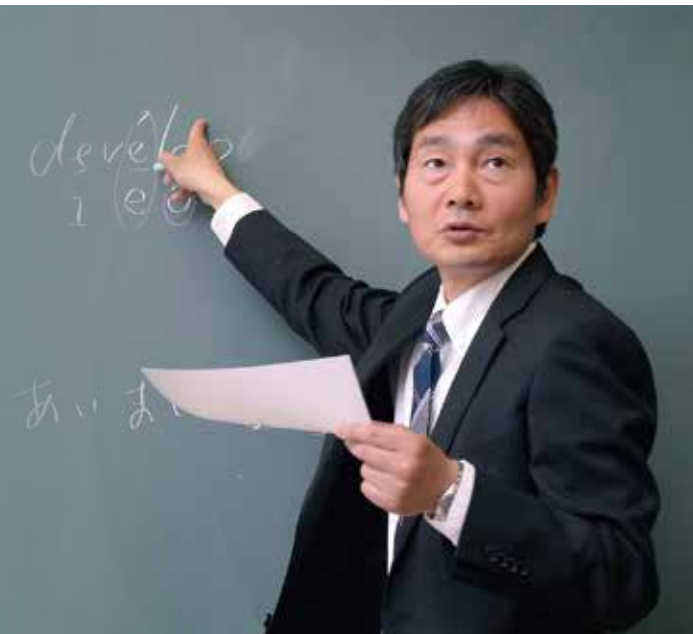
資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
固 定 資 産	14,862,030	固 定 負 債	489,911
有 形 固 定 資 産	9,522,357	流 動 負 債	504,832
特 定 資 産	4,301,292	負 債 の 部 合 計	994,743
その他の固定資産	1,038,381	純資産の部	
流 動 資 産	613,875	科 目	金 額
		基 本 金	15,998,019
		繰 越 収 支 差 差 額	△1,516,857
		純 資 産 の 部 合 計	14,481,162
		負債及び純資産の部合計	15,475,905
資 産 の 部 合 計	15,475,905		

貸借対照表
(平成31年3月31日現在)

授業アラカルト

『英文法』

専任講師 西前 明 先生



西前先生は大学で出会った英語の先生に憧れ、大学教員や研究者になりたいと思ったそう。専門は英文法で、「学生の記憶に残るのは、意外と教員がその場で思いついて話したこと。用意してきたものを、アドリブのように見せるテクニックも駆使しています」と、こっそり教えてくれました。

生の英語から英語の基本を発掘する力を養い、使える知識に。

この授業では子供向けの物語文を使って英文法を教えています。主に使用しているのは、アメリカの絵本作家アーノルド・ローベル(Arnold Lobel <1933-1987>)の作品です。日本では、『カエルくんとガマくん(Frog and Toad)』の中の「お手紙(The Letter)」という話が一番有名かもしれませんが(カツムリが手紙を届ける話です)。

この授業のねらいは、生の英語から英語の基本を発掘する力を培うことです。自分で発見した知識は、実際の英語の運用と直結する「使える知識」になりやすく、また、主体的に学習できるようになれば、学校を卒業した後も自身の英語を自身の力で発展させていくことができます。

子供向けの物語文は本来、国語教育の機能を持っており、英語の基本が見えやすい形で書かれていることが多く、英語学習における主体性を養う格好の教材です。例えば、(1)の下線部には可算名詞と不可算名詞の区別が見えますが、「不可算名詞 and 可算名詞」のフレーズが二度繰り返されることによって、それは際立って見えてきます。小さな工夫ですが、効果は大きいです。

(1) "I can see earth and stones. I can see grass and flowers. It is a wonderful sight."

(Two Large Stones: 29)

知りたいことがあるとき、辞書を引くのも大事ですが、可能ならネイティブ・スピーカーに聞いてみるべきです。ネイティブへの質問は刺激的な体験なので、質問の結果も強く記憶に残ります。ネイティブに質問するときは、質問をできるだけ答えやすい形にする工夫が必要です。例えば、offという前置詞の意味と用法を知りたいとき、「offの意味は何ですか?」といきなり聞くのではなく、(2)のような特定の文を見せて、「このoffをfromやout ofに換えることが可能か?もし可能なら意味に違いがあるか?」を尋ねます。(2)は絵本からの引用ですが、その絵本を開いて質問するのがベストです。

(2) Come down and blow my boat off this house. (The Mouse and the Winds: 34)

物語を集めてコーパスを作り、検索をかけてoffを含む例文をたくさん拾い、それらを見せて質問すれば、深い理解が得られることでしょう。絵本から作ったコーパスとネイティブ・スピーカーは、私が提案する学習法に欠かせないツールです。

文法事象の発見が授業の柱ですが、運用力向上のためのワークも行なっています。素早く読んで、パートナーに物語の内容を英語の間違いを恐れず勢いよく伝える練習、正確かつシンプルな英語で要約文を作る練習、などです。

実を言うと、ローベルの絵本を使うというアイデアは、大学1年の時からの親友である小山太一氏から盗んだものです。15年くらい前のことです。それ以来、本文の分析と授業での使い方の研究を続けています。本文の分析は、私の英語の先生でもある友人のCharles Laurier氏とMichael Smith氏に助けてもらっています。三氏には足を向けて眠ることができません。



先生のアドリブを利かせた話に、学生たちから思わずクスリと笑い声がもれます。